

東富間領主人

トシトリ申口

私之妹ハ名ハケトシケ年ハ十八ニ相成申候

昨年十一月中頃ニ會^ハマシ^テ傷キ居リ尤モ會^ハマシ^テヨリ^テ其カ

迄ニ里モ隔リ居候処ニ有東富間ノ私諸共出稼イタシ居候

処キ一月中旬頃ヨリ不相見故家ニ皈リシ事ト存居申候

四五日ヲ經テ不相見候ヘ共其依尋モ不致候内高白塚御通

行^ニ申人豆トシテ小突ヘ参リ用濟ニテ東富間ノ皈リ候処矢張

不相見候ニ付私宅ヲ尋候ヘ共不相見候ニ付一^所ニ尋^ニ参リ

メナクシテキイリシ人ニ^ニ金候^ニ付メノコヲ不知ルカト尋候ヘハ

不知趣^ニ有キブシナイヘ掛リ洞泊迄相尋候ヘ共不相知^分然ル

度東富間番人源兵衛ト申者楠波ヘ参リ居候ニ付同人ト

同道ニテ東富間ノ皈リ申候

皈リ見候ヘ共妹不相見宅ニモ不^由参^ハ申人一人ヲ連レ又々ナク

ケシ領ヘ尋^ニ出申候其節雪モ降り候ニ付足跡モ有^マズ且キイ

リシ人ニ^モ查^ヒ候^ニ付其足跡ヲ行キ候処キイリシ人テニトウヲ

張^其外^ニテ火ヲ焚キ居ル処ヘ参リ申候

其一^所ニキイリシ人兩人居リ申候

土人ノメノコハ不知哉相尋候ヘ共不知旨申答ヘ候

日モ夕暮^ニ有キイリシニ^テ處ヘ兩人トモ泊リ申候

一人之大きナルキイリシニ申ニ主人ニ其ノコノキイリシ人連レ
行クト申ニ依リ今一人小ナルキイリシハ実ナルヤト問候処
返答モ不致暫ラウアツテ頭ヲ振り不知ト申候

キイリシ屋ハ一泊イタシ其翌日キバナイ川迄相尋候処山丹
人ニ逢ヒ相尋候ハ共相分リ不申ニ谷川下ニ至リ沼廻リヨ通行
イタシ東富間ハ故リ申候

心掛リアル沼際等相尋候ハ共更ニ不相分候故其終ニイタシ
居リ候

バホウキイリシ人ニ所為ニ殺シタル事ヲ會所ハ申出候ニ
其殺サレタル事ヲ初テ承リ候

夫ヨリ善松ニ隨ヒキイリシ人ヲ取押ヘニ参リ申候

羊途点雪車ニテ参リ夫ヨリ發行ニテキイリシ人ノ所ニ至リ
候ハ共折悪シク居合不申候故待受候処故り来リ候ニ
可取押ト存候ハ共鉄棒所持イタシ居候ニ暫ラク是扣
鉄棒ヲ置キ候ニ自家ハ杖キ故外引出シ取押ヘニ掛リ私ハ
右ニ手ヲ押ハ申候

取押ヘニ善松鑄ニ裏ニ脊ヲ打テ繩ヲ掛ケ搦メ申候
私有漆ニテ雪車ニアル此迄参リ申候

キイリシ人ノ皮羊袋籠等ニ所持品ハバホウキ等持参イ
タシ候

一 會所ニテキイリシ人ヲ取亂シ候節白状不致故ニ善松様ヲ
春ヲ段候へ共疵ハ存キ不申候

一 私ハキイリシ人ハ尋度事モ有之候へ共言葉不通故其義
難出来且妹モ現在キイリシ人ニ殺サレタル事ヲバホウヨリ

兼リ居リ候ニ存怒ノ餘リカヲリニテ頸ヲ段ニ申候處疵ハ
深サハ能ク知レ不申候へ共聊之ヨリニ存候長サハ一寸斗リモ

有之候

一 キイリシ人之中ニ拙者之業ニハ無之存ケシ居ル大男エヤラ
セシ小男ノ上ワシ兩人ハ秋中ヨリメナケシ居ル故兩人ノ所業
ニ可有之旨白状仕候

一 白状セシヨリ繩ヲ解キ申候

一 板敷之上ニ揚ケ飯并酒ヲ吞セ申候

一 腰繩ニテ會所へ留置申候

一 小室へ送り候節ハ両手ヲ帶之処ニエルリ締メ申ニテ送り
申候

一 小室ニテハ番屋ニ到リ繩ヲ解テ飯ヲ與へ夫ヨリ侍役所へ
参リ申候

一 其日ハ番屋ニ留置翌日腰繩ニテ楠溪ニ参リ申候

一 楠溪ニテハ繩ヲ解キ申候

一 魚目西亞人小室ニ参リテ節私モ小室へ参リ候へ共何ニモ

尋ハ無ク候

一 小室ヨリ楠溪ニ参リ三日ヲ過キテ午ヤ午コフ并ニト口ス兩
人ニテ来リ連レ参リ候テ只今申上候事ヲ聞キ候ニ付申
述候

一 腹ノ大キナ士官云宅ニテソソレフニ通弁ヲ聞カレ申候申
シタル事ハ士官ガ書留メ申候

右為尋ニ付相違不申上候

明治七年五月二日

トシトリ爪印

差添

會所支配人代

鈴木久三郎印

東富間役主人

エライ爪印

通詞

竹田兼兵衛印

開封印

開封印

開拓使管下

渡嶋國津輕郡福山平民

當時様太州惠富間出稼漁夫

勇 善松 申口

一 東富間領ヲ子ヨカ主人トシトリ妹ケトニケト申モ年

十八ニ相成申候

一 昨明治六年十一月十一日迄會平ニテ相働居候

一 十二日ニ朝主人ヲ呼ビ参リ候処同人不相見候ニ付何レハ

参リ候哉相尋候ハ小実ハ参リタル旨主人等申候

一 二日程過キテ役主人ニ申付東富間小実取調ベサセ申候

一 主人等調ベニ参リ候ハ共不相分申ニテ四日過キテ會平一ツハ
飯り申候

一 十日モ相立候テトシトリハ申付東富間ヨリキブニナイヲ裁

ニ楠溪夫ヨリ小実ヲ廻リ可取調様申付候ニ付調ベニ出

テ候ハ共不相分候

一 トシトリ調ベニ出テメナケシエキイリニ家ハ立寄候ハ共

一人モ不居合ヨレニ為坐候

一 トシトリ之申スニ平々相尋候ハ共不相分故所詮容易ニ相

知レ申間敷ニ付先ツ其候ニ可致置ト申ニ付夫ニテハ不相濟

候間尚亦取調可申尤山丹キイリニハ逢ヒ候ハ能ク相

開拓使管下

尋ル様申有候

丹波守様大書

一 トシトリ申スニ山丹并キイリンモ澤山居ル事故アイノ一人
貸シ呉レ候様申候ニ付テントウト申上人ヲ分添セ申候

一 二度目調ニ出候ハ九十二月ニ初頃ニ有之候

一 兩人出立致シメナケシニ川筋ヲ通り候処キイリンノ家有

之最早夕方ニ相成候ニ付其家ニ泊イタシ最早休息セント

スル時キイリン人ニ申シメノコ一人キイリン人連レ行タル旨語

シ候ニ付トシトリヨリ其メリコハ何レハ連レ行キシ哉相尋候

ハバ不知ト申故尋手又ルモ詮ナシト其翌日近傍ヲ尋手ヨリ

東富間ノ故リ来リ申候

一 トシトリ申スニ最早尋ヌルモ詮ナキ事ニ候多分ト死シタルニ相違

有之間敷且追々雪モ降り候ハ死骸ヲ見出ス事六ヶ敷候

間此候ニテアキラメ候外無之ト申居候ニ付其体ニイテ置候

一 小実御役所へモ此趣ハ兩度程御届仕置候

一 十二月十日頃ニ主人等ヨリ申出候ニ最早死セシニ相違

有之間敷候間靈祭致シ度旨ニ付其意ニ任セ候

一 三月二十五六日ノ頃アイロフへ海浦ニ住スル子ノヤント申者

山獵ニ来リ主人家へ止宿セシ由尤主人バホウモ謙テ山獵ス

ルモノ故キイリント同宿致シ其節濁酒ヲ吞ミ居候処キ

イリニシテ申スニ「イキヤンキナイニ居ルキイリン人ヲ何故東富間

開石使華大友

ニテハ其低ニ致置哉ト問レ候由バホウ一夫トハ如何ナル詠ナル
哉ト申候申ノ処イナキナキナイニ居ルニヤラセト云モノ等ヤラ
セニエワシニ三人ニテメナケレノ川辺ニテメノコヲ捕ハ五日程留
置強姦シ最早死人モ同様體タモ働カス目ヲ閉居ルヲ
川中へ投込殺シ候由相託シ候趣ヲ以テ會一ツ同廿九日詠
ハニ參多リ申候

一 其第廿田ノ家兵衛モ東富間ニテ番人ノ善藏病死セシ
折ニテ一時出張中ニ合メノコノ殺サレシ事ニ合相談仕候處
同人ノ申スニ其低ニ致シ置詠ニモ相成間敷候間私ハ取調ニ
參多リ候様申候ニ合主人トシトリ、イクトニニ、バホウ一之三人ヲ

連レ三月三十日イナキナキナイニキイリン人方ハ四能敷シ候處
折悪シク不居合故暫時相待候處キ後ニ時頃飯リ来
リ候ニ合直ニ捕ハニ懸リ候處荒レ廻リ候故是ハ容易ニ捕
得ル事難出来ト存ニ儲ノ裏ニ眷ヲホチキ後ロニ廻シ
取押ハ申候尤私ノ一了簡ニテ段子申候ハ共此合キ候義
ハ無ク候

一 キイリニニ向ヒ其元ヲ取押候モ入リエゾメノコヲ殺セニ合
捕ヘタリ是ヨリ東富間ハ連レ行キ可申ト申候ハバホイノ、
皮ヲ遺ルニ合堪忍ニテ呉レト申候ニ合夫ハ不相成ト申候ハ
夫ナラバカレノ持品ヲ一ツニ送り呉レ候様申ニ合バホウ一ノ申合

大車ニテ東富間へ遣し候

一 キイリシ人ハトシトリノ大車ニ乗セタ方六時頃引取申候

一 會所ニテキイリシ人ヲ縛リニ終柱ニ括リ申置申候テ相調へ申候

一 其方メナケレシテメノコヲ殺シタ事ヲ「子ヤニヨリ」ハホウノ義

リ告ケ来リ候ニ付縛リテ此ニ連レ来レリ速ニ白状スヘシト申候

一 ハバ不知ト申候ニ付棒ニテ兩三度打テ候へ共疵ハ付キ

不申候

一 打子候テモ白状不致ニ付ハホウノニ申付種々尋候へ共鬼ニ

申サズ其内トシトリ自分ノ妹ヲ殺サレタルヲ憤怒ノ餘リ

キイリシノ頭ヲカヲリニテ段子候へハ長サ一寸五分位モ有エ

哉深サハ格別ノ事ニハ無エ凡ニ分斗リモ可有エ創ヨリ

血流レ申候ニ付早速甘味ヲ喫へ申候

一 イツ迄モ白状不致候ハ尚段子可申ニ付速ニ申ベシト申候へ

ハ其事ハ「コレハ知りタル事ニアラズ」アラセシエワシ兩人ニテ

殺シタリ此モノ等此ニ参レバ直ニ相分可申ト白状イタシ候

一 バホウノハ其方并外二人ト共々殺シタル事ヲ「子ヤニヨリ

聞ケリ故ニ其方モ罪ナキニアラザレバ外二人ノ者ノ所業ト

申候故先ツ繩丈ケハ解キ遣スベクト申候夫ヨリ酒等ニ

飯杯喫へ申候

一 日本人ハ私一人主人ハ二十人斗リモ相集リ申候竹田兼兵衛ハ

一時出張ノ事ニ有其処ニ居リ候へ共取調べ不申能ク
ハ兼知無エト存シ候

一 キイリシ人ハ何レノ者歟存シ不申候

一 三月三十一日付田原兵衛キイリシ人ハ差添ハオウトシ
クワシナト申土人下俱ニ小突ハ罷越シ申候

一 キイリシ人ハクワシナト申車ニ乗セ小突御役所へ御届ケ
申候

申候

一 小突ニテ四月二十四日魯舎ニ呼レ其節士官ハ腹ノアグレタ
人ニ御坐候通詞ハ日本語通詞ニテ名ハ不存候其節

井上様御立會有エ候

一 士官ノ問ヒシハ所口々ニテ右申上候内ニ事ヲ申候其
節口書ニ有エ候通りニ御坐候

右再慮御尋ニ有相違不申上候

明治七年五月四日

三男

善松瓜印

片抄便極大支屏

東宮御旨

ネフ丹共臣

ハミミツハ申口

ケマトシケルメノコトヲ申上リ申上リ申上リ
書上り申上り

ニケ年未申上り申上り

オ全無ク申上り申上り申上り申上り

縁以申上り

阿利ツル申上り月ハ過キリツル申上り

有

片抄便極大支屏

開板便格太支履

キーリレ人尊うゑるゑるの

メノコ教サレト事うゑる存るの

キーリレ人うゑる私わが國くにのも存るの

ハ好このありる事こと也なり

みまの身みまの身みまの身みまの

一三三ツハ印

差添

百

澄米久の印

差添

東の女の級の人

丑ウイ凡印

赤子母白屋

イクトク申口

メロコ行方こしレサルものハ語を承り申口
 若松より自にありキーリの人ヲ捕ニあり
 其の自にありキーリ人若松ト申トリバあり
 申あり

イキヤシキナイふ山にありウキ又キーリの人ハ石を置キ
 結ありウキ又方ありありウキ自直ニ捕ニ掛あり
 キーリの人道にありウキ若松海にありウキあり
 おツ光之燈ハ付きくまふ